



芳賀町の仲間に



藤本 彩代子さん
(祖母井)

21年前私たち夫婦は、芳賀町に引っ越してきました。何もわからず、小さな子どもを連れて毎日を過ごしていたことを覚えています。

1年を過ぎたころには、近所の方や商店街の方会う人みんなが声をかけてくれて、自分もこの町の仲間になったのだと感ずることができるようになっていました。

祖母井地区は、新居を建てたり、アパートに越してきたりと住民が増えています。みなさんに伝えたいことは、芳賀町のひとたちはちょっと方言が強くてけんか腰な喋

りかたをしています。本当はいろいろ世話を焼いてくれ、心配してくれる方たちです。わたし的には「遠くの親より近くの他人」です。子育てから介護まで、役場もそうですが近所の人みなに相談してみてください。きっといっしょに考えてくれると思います。

議員の皆さん、役場の職員の皆さん、町民一人一人のニーズに応えるのは難しいかもしれませんが、自分の悩み事を聞くのと同じように耳を傾け、対応していただけることを期待しています。

若者が住み良い町に

議会だよりは、私たちが住んでいる芳賀町の問題や課題、未来の暮らしを決定する事業計画などが掲載されています。

多様な価値観を持つ若者を始めとする町民の皆さんが、気軽に行政や議員と意見交換できる場を設けてみてはいかがでしょうか。その若者の未婚者が多いことは町としても問題ではないでしょうか。私たちの集落から小学校に入学する子どもは数年間おりません。少子化対策の第一歩は若者の結

婚です。

問題は本人ですが、将来を担う若者のために町からの支援策をもっと多くお願いします。地域にある伝統行事等に気軽に参加できる環境を整え、町全体で若者の人材育成を継続していくことによって、地域活性化の一步につながると思います。

思いやりがあり、美しい故郷に誇りの持てる町を目指し、将来を担う人たちが積極的に伝統を受け継いでほしいと思います。



矢口 務さん
(上稲毛田)

灯りをともすこと



大島 もも子さん
(東水沼)

数年前、結婚・出産を機に実家のある芳賀町に戻ってきました。

「一人一人が自分の内側に灯りをともすことでお互いを照らしあい、影響を受けあって一緒に成長をしていくこと。それが教育の本質である」

これは19世紀にデンマークで教育改革をおこしたグルントヴィという一人の牧師の方の言葉だそうです。

私自身子どもを持つ身になり、初めてこの言葉を耳にした時に感じたことは、教育

というのは学校や社会の中でだけで行われるものではなく、まずは家庭においてお互いに一人の人間として向き合い、大人も子どもと共に成長していくことが大切なのかもしれないということでした。

果たして今の自分にそれが出来ているのだろうか？子育てと仕事に追われながら自問自答の日々です。

今後も子どもたちと共に大人たちも成長していけるような、そんな町づくりを望みます。